

再評価結果(令和7年度事業継続箇所)

担当課: 道路局国道・技術課

担当課長名: 西川 昌宏

事業名	一般国道192号 徳島南環状道路 <small>とくしまみなみかんじょう 徳島南環状道路</small>		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自: 徳島県徳島市国府町観音寺 <small>とくしま とくしま こくふちようかんおんじ</small> 至: 徳島県徳島市八万町大野 <small>とくしま とくしま はちまんちようおの</small>			延長	9.5km	
事業概要						
<p>一般国道192号は、愛媛県西条市を起点とし、三好市・美馬市・吉野川市等の吉野川沿岸の各市町を経由して徳島市に至る総延長約99kmの主要幹線道路であり、沿線地域の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤や余暇活動などの日常生活に欠かせない生活道路としての役割も併せ持つ重要な路線である。</p> <p>徳島南環状道路は、徳島市中心部へ流入する交通を分散し、通過交通が減少することで慢性的に発生している渋滞を緩和し、地域の活性化に大きく寄与する高規格道路である。</p>						
S61年度事業化		S60年度都市計画決定 (H16年度変更)		H元年度用地着手		H7年度工事着手
全体事業費	約1,328億円		事業進捗率 (令和6年3月末時点)	約54%	供用済延長	5.9km
計画交通量	24,300~51,900台/日					
費用対効果分析	B/C (事業全体)		EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)
	1.2		5.1%	455/1,785億円		1,533/2,181億円
	1.5 [2%]			事業費: 423/1,723億円		走行時間短縮便益: 1,219/1,793億円
	1.6 [1%]			維持管理費: 33/ 62億円		走行経費減少便益: 239/ 301億円
	3.4		16.3%	更新費: 億円		交通事故減少便益: 76/ 87億円
4.6 [2%]		感度分析 (事業全体)		(残事業)		
5.5 [1%]		交通量 B/C=1.1~1.3(±10%)		交通量 B/C=2.9~4.0(±10%)		
		事業費 B/C=1.2~1.3(±10%)		事業費 B/C=3.1~3.7(±10%)		
		事業期間 B/C=1.1~1.3(±20%)		事業期間 B/C=3.1~3.7(±20%)		
事業の効果等						
①円滑なモビリティの確保						
<ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる ・現道等の混雑時旅行速度の改善が期待される ・現道等の路線バスの利便性向上が見込まれる ・JR徳島駅(特急停車駅)へのアクセス向上が見込まれる ・徳島阿波おどり空港(共用飛行場)へのアクセス向上が見込まれる 						
②物流効率化の支援						
<ul style="list-style-type: none"> ・徳島小松島港(重要港湾)へのアクセス向上が見込まれる 						
③都市の再生						
<ul style="list-style-type: none"> ・「徳島県新広域道路交通計画」で位置付けられた環状道路 						
④国土・地域ネットワークの構築						
<ul style="list-style-type: none"> ・地域高規格道路 徳島環状道路の一部を構成する ・日常生活圏中心都市である徳島市へのアクセス向上が見込まれる 						
⑤個性ある地域の形成						
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模イベントである「阿波おどり」を支援する ・周辺地域における主要な観光地へのアクセス向上が見込まれる 						
⑥安全で安心できるくらしの確保						
<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県立中央病院、徳島大学病院(三次医療施設)へのアクセス向上が見込まれる 						
⑦災害への備え						
<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県地域防災計画において第1次緊急輸送道路に位置付けられている ・国道192号の防災点検箇所を回避したルートが形成される 						

⑧地球環境の保全

・CO2排出量の削減が見込まれる

⑨生活環境の改善・保全

・NOX排出量の削減が見込まれる

・SPM排出量の削減が見込まれる

・徳島南環状道路景観検討委員会において景観検討を展開

⑩他のプロジェクトとの関係

・主要地方道徳島環状線と一体的に整備することで徳島外環状道路の一部を構成する

・周辺道路の安全性向上が見込まれる

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等:

・徳島県、徳島市、国道192号吉野川市・徳島市間整備促進期成同盟会などより本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。

(令和4年度8月、11月、令和5年度7月、11月、令和6年度5月、7月、8月)

徳島県知事の意見:

・「徳島南環状道路」の事業を継続するという「対応方針(原案)案」については、異議ありません。

・「徳島南環状道路」は、徳島市の中心部を通過する交通や市街地に流入する交通を円滑に処理し、市街地及びその周辺地域における慢性化した交通渋滞の緩和や地域経済の活性化、日常生活における交通の利便性安全性の向上や、災害時の救援、復旧・復興、ひいては「地方創生」に資する重要な社会基盤であります。

・既に供用された区間と平行する県道や交差点では、交通量が減少するなどの効果が発現されており、整備による市街地の渋滞緩和や定時性の確保が期待されることから、一日も早い全線供用をお願いします。

・県といたしましても、地元の徳島市としっかりと連携し、円滑な事業推進に向け、全力で取り組んで参ります。

・なお、事業の実施に当たっては、物価や労務費の上昇への適切な対応を行いつつも、全体の事業費を極力抑えられるよう、引き続き、コスト削減をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

・平成23年3月 (主)徳島環状線 川内町大松～平石 延長1.3km 開通

・平成24年4月 (主)徳島環状線 川内町平石～住吉 延長3.7km 開通

・平成27年3月 徳島自動車道 鳴門JCT～徳島IC 延長10.9km開通

・平成27年3月 徳島自動車道 松茂SIC 開通

・平成27年3月 (主)徳島環状線 安宅2丁目～阿波しらさぎ大橋南詰(南向き)延長0.95km 開通

・平成27年7月 徳島津田IC連結許可

・平成31年3月 高松自動車道(鳴門JCT～高松市境間)全線4車線化開通

・平成31年3月 (主)徳島環状線 阿波しらさぎ大橋南詰～安宅2丁目(北向き)延長0.94km 開通

・令和元年9月 小松島南IC連結許可

・令和2年10月 徳島津田IC 阿南方面出入口 連結許可

・令和3年3月 (主)徳島環状線 新浜本町～八万町大野 側道部4車線化 延長2.0km 開通

・令和3年3月 四国横断自動車道 阿南四万十線 徳島津田IC～徳島沖洲IC 延長2.4km 2車線開通

・令和4年3月 (主)徳島環状線 国府藍住工区 東側側道 延長0.8km 暫定開通

・令和4年3月 四国横断自動車道 阿南四万十線 徳島沖洲IC～徳島JCT 延長4.7km 2車線開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

・昭和61年度に事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約54%(令和6年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・現在、調査設計、工事を推進中。

施設の構造や工法の変更等

・想定できない事象に起因する事業費増加等においても、今後も新技術、新工法の採用による工事コストの削減に加え、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの削減に努めていくこととする。

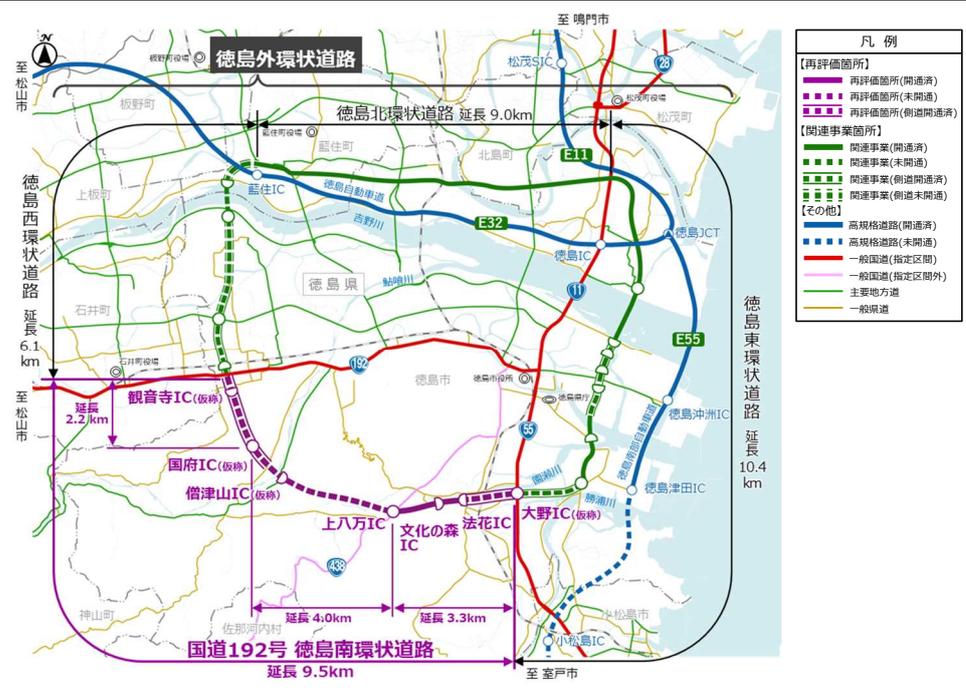
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
 ※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。()内は社会的割引率の値)